

が認められたものはなかった。群間比較では、尿酸値はC, D群間以外のすべての群間で有意差が認められた。FEUAは、A, C群間, A, D群間で有意差が認められた。

【考察】VPAを内服している重症心身障害児は尿酸値が低い。しかし歩行できる児ではVPA内服の有無に関わらず低尿酸血症にはならない。低尿酸血症の原因として、VPAによる腎尿細管障害と、重症心身障害児であることが考えられた。重症心身障害児であることの何が尿酸値に影響を及ぼしているのかは、今後さらに検討が必要である。

3 てんかんが発達障害の主因になったと思われる重症心身障害児・者

小西 徹・早川さゆり
伊藤 英子・小柳 新策
小澤 寛二 (長岡療育園)
栗原真紀子・松沢 純子 (富山医科薬科大学
小児科)
赤坂 紀幸 (新潟大学大学院
小児科)

長岡療育園入所者134例において、てんかんが

発達障害の主因になったと思われる8例(6.0%)の臨床特徴について検討した。原因となったてんかんはWest→Lennox-Gastaut症候群が5例、痙攣重積または痙攣頻発を有する症候性局在関連性てんかん3例で、いずれも乳児期早期発症のてんかんであった。大島分類では2, 5, 10に属し、運動障害が比較的軽度であり、且つ筋緊張低下を示す例が多かった。現在てんかん発作は3例で消失していたが4例で未だ頻発しており40歳を過ぎても活動性は高かった。以上の様に、てんかんが発達障害の主因になった重症心身障害児・者は他の原因による例とはかなり異なった臨床特徴を有することが示唆された。

II. 特別講演

「最近注目されているてんかん症候群」

東京女子医科大学小児科
小国弘量